

③ ち い き 地域



きょういく 共育コミュニティ

社会状況が変化する中、地域における人との結びつきが弱まり、子どもの教育にも影響が出ていると言われています。

県では、平成20年度から、各市町村と協力しながら、中学校区程度を単位に、教職員・保護者・地域の方々が集まり、子どもの育ちや教育について考え、活動することを通じて、子どもも大人も共に育ち育て合う「地域共育コミュニティ」づくりを進めています。

この取組の核となるのが、学校の抱える課題や地域の願いなどを共に考え、話し合える場と地域共育コーディネーターの存在です。「もっと学校と関わりたい」という地域の方からの声や、「地域の文化を子どもたちに伝えて欲しい」という学校側からの願いがあり、それを学校と地域を結ぶ地域共育コーディネーターの方がつなぎ、子どもたちの豊かな育ちを支える教育環境の実現に取り組んでいます。

問 県教育委員会 生涯学習課
073-441-3725

地域共育コーディネーターとは
地域と学校の間に立って、両者を結びつけ活動をつくり上げていくための調整を行っていただいている方です。

海南市異地域 地域共育コーディネーター
山崎 セ一さん
地域づくりは学校を巻き込まないといけない

定年退職と同時に自治会の区長を引き受け、地域の遊歩道や公園の管理などを通じ、子どもたちとふれあうようになりました。学校と関わった第一歩は、小学校の教室を借りて地域の人を対象に行ったパソコン教室です。それをきっかけに、異地域にある18もの団体で各種団体連絡協議会を作り、地域ぐるみで学校を盛り立ててきました。その組織を生かし、昨年度からは異



地域の方たちとしめ縄作り

共育コミュニティとしての取組も始めました。なかでも、PTAを中心に地域の方が小学校の図書室で、ボランティアで本の修繕や整理、読み聞かせなどを行う「図書ボランティア」は好評で、子どもたちが本を開く機会が多くなりました。これらの取組を次の世代にどうつないでいくか、それは悩みでもありますが、私の夢でもあります。



学校から地域への取組

白浜町立南白浜小学校
校長 長野 文昭さん

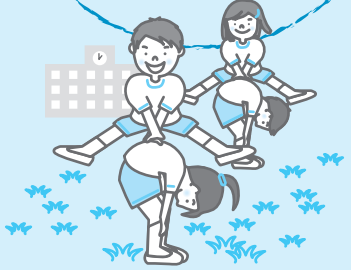
「子どもの輝く笑顔と花と緑いっぱい学校」をめざして

南白浜小学校の校庭や花壇には一年を通して色々な花が咲き誇ります。子どもたちが種から苗を育て、それを中学生や保護者、地域の方々と一緒に植え替えます。また、育った苗をプランターに移し、紀伊富田駅や特別養護老人ホームなどに持って行き、地域の美化活動にもがなばっています。子どもたちは、地域で生き、育ち、学び、成長することが大切であるとの信念で、地域と共に歩む活動をこれからも推進していきたいと思っています。



育った苗を紀伊富田駅へ運びます

みどり 緑 いっぱい！ 芝生の運動場



県では、平成20年度から、希望する小学校に運動場の芝生化のための補助を行っています。その結果、現在、県内8地域13小学校の運動場が緑いっぱい芝生で覆われています。

繁殖力の強い芝をポットで40日ほど育て、子どもや保護者、地域の方が運動場に植え付けを行っています。こうした植え付けや管理を学校・家庭・地域が協力して行うことで、地域のコミュニティの活性化も図れています。

また、芝生の運動場は、子どもの運動量の増加による体力向上やストレスの軽減も期待できるとい調査結果が出ています。県では、子どもの体力向上や地域コミュニティの活性化が期待できる芝生化を今後もより一層進めていきたいと考えています。

問 県教育委員会 健康体育課
073-441-3693

芝生の成長記録



5月8日
はじめは苗箱で育てます。



6月9日
苗箱成長したよ。もう少しで運動場に…



6月16日
50cm間隔で植え付け。はじめはこんなにまばらな状態…



8月13日
植え付けから2カ月こんなに成長！そろそろ完成するよ



9月10日
青々とした芝生が一面に

10月7日
はだして気持ちいい！

インタビュー

和歌山市立安原小学校 校長 田中 誠家さん



芝生の運動場なんて言うって、「費用がかかるのでは？」「雑草はどうするの？」「運動会はできるの？」など、よく聞かれますが、この芝生は良く知られている高麗芝ではなく、成長の早いティフトンという芝を利用した低コスト・低メンテナンスの方法です。花の苗のようにポットで育てた芝生を運動場に植え付け、約3ヶ月で運動場一面が芝生になります。

運動会の際には、コーンを並べたり、水性ペイントでラインも引けますし、雑草も芝と同じ高さで刈れば緑のじゅうたんです。子どもたちからも好評で、芝生を張ってからは子どもの遊びの種類がぐっと増えました。

屋外運動場芝生化促進事業 実施校一覧

